

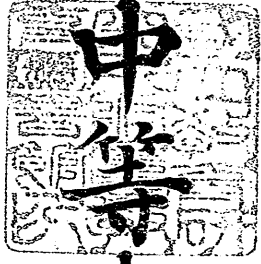
中等大正習字帖  
二

K220.72
63
2

K220.72

63

2



中華書局  
大正習字帖  
二

盡忠報國修

身齊家救世

秩序公益名

男二二

譽愛撫慰藉

士ハ質實欺カザルヲ以テ  
要トナシ巧詐過ヲ文ルヲ

以テ恥トナス公明正大ハ  
ミナ是ヨリ出ヅ

向暑の節おかはりもなくや手製  
の新茶少くは目よかけりあや

志切出来ばえなぐら風味を聊の  
自慢のつもりは笑覧下さきたくや

慎言語以修其德

節飲食以養其體

好事不出門惡事傳千里

千丈之堤以螻蟻之穴潰



昔の人は志をやり勢あり  
何れをも認めあけりかは

ふ人の林のそは奥あり  
海は村のそも旬からむ

孰一人の生涯を觀るに福運の  
常に勤勉なる人の例と信ふ

男二七

之恰も順風穩波に航海す  
巧なるものた然ふかきと

鞭聲肅夜過河

男六

曉見千兵擁大牙

遺恨十年磨一劍

男  
二  
九

流星光底逸長蛇

荒海や佐渡横ふ天乃川

よの言ふを唇さむし秋乃風

秋の空すがほのしう晴き渡りて佳  
は祖父母の栄壽のは賀延は催の由

男三十一

祝著玉極も存しよけの此の如ぼんの  
は祝は志まゝの目にかけ候

皇祖宏遠深厚億兆濟美

男三十二

國體精華淵源修學習業

世務國憲緩急義勇天壤

無窮扶翼遺風顯彰服膺



松明ツキテ手ニ火ノ近ツクトキハ  
速ニ捨ツベシ火事アリテ危キトキハ  
荷物ハ捨テ逃ゲ出スベシ船クツ

ガヘラントセバ上荷ヲハヌベク  
甚ダシキトキハ帆柱ヲモ伐ルベシ  
此理ヲ知ラサルヲ至愚トイフ

やうなけいふのほきなむ世なり  
君にふまひこむあいらぬ母

まへに遊ばふ事のあはる  
いよまなしてふ人よまねの船

國以簡賢為務  
賢以孝行為首

諾輕者信必寡  
面譽者背必非

權利義務遵奉違反

制裁訴訟審議辯護

千歳の後た生れて千歳を以て  
聖皇もねんゆきと成ほるは  
清きもの

清きもの  
清きもの  
清きもの  
清きもの  
清きもの  
清きもの  
清きもの  
清きもの  
清きもの  
清きもの

彼岸様のはなをばかきかへる由の  
日曜と朝のうら山生が牛と

男二十九

存の先よりまをひきけり後  
拙定よりすは待ちしる中の事々

三井晚鐘粟津晴嵐  
石山秋月唐崎夜雨

男三十一

勢田夕照比良暮雪  
堅田落雁矢橋歸帆

照會催促懇願配意幹旋

挨抄招待案內吹聽披露



君子はるまたたきと命を信じて  
少くもをりひて半成活む

少くもをりひて半成活む  
少くもをりひて半成活む

R220.8

大正元年十月二十七日

日高秩父



墨三三三

大正元年十月二十七日  
大正二年一月十一日  
大正二年一月十五日  
再版發行  
再版發行  
再版發行

不許  
複製

發行所

東京市日本橋區本石町三丁目

寶文館

閱者  
書者  
發行者

文學博士

上田萬年

日高秩父

大葉久吉

中等大正習字帖全三冊  
定價各金貳拾錢

東京市日本橋區本石町三丁目十七番地

宮田六左衛門

